

事務事業名	市道除雪・融雪剤散布事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	連絡先	504	

政策番号	05	基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針								
		実行計画	03	道路河川等整備計画	0202	市道除雪・融雪剤散布事業								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	市道除雪・融雪剤散布事業				会計コード	01	款	08	項	02	目	02	事業	02
事務事業の概要	10cm以上の積雪時には、できるだけ通勤・通学の時間帯に間に合うように除雪重機等で集落と集落を結ぶ指定の幹線市道約200kmの除雪を行う。 降雪後の道路凍結時には、通勤時間帯や路線状況により指定の幹線市道の急坂や曲線部約90kmに融雪剤散布を行う。													
現状と背景	スパイクタイヤの使用禁止や茅野市の地形等から市街地では平常時でも通勤・通学の時間帯に渋滞が発生しており、冬場の降雪や路面凍結時には交通に障害が出る等、通勤や物流に大きな影響が出る。このような道路状況について、除雪重機等の除雪作業や融雪剤散布が必要となる。													
目的	受益者	茅野市内の道路利用者												
	対象	市内の集落と集落を結ぶ幹線市道の指定箇所 約200km 市内主要幹線市道の急坂・日陰・曲線部分の指定箇所 約90km												
手段・方法	意図	通勤や物流に欠かせない市内幹線道路において、積雪や凍結による交通遮断が発生しないよう除雪や融雪剤散布を行い、市内幹線道路網の機能確保を図る。												
	方法	幹線市道の指定箇所 約200kmを重機等で除雪する。 玄関口の除雪は利用者や区・自治会等に作業協力をお願いする。 幹線市道の急坂・日陰・曲線部分の指定箇所 約90kmの融雪剤散布を行う。 市で散布を行わない路線は利用者や区・自治会等に作業協力をお願いする。												
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1 除雪の実施	1回の除雪延長	km	除雪1回の請負業者の除雪機械の総走行距離	216								
		2 融雪剤散布	1回の散布延長	km	散布1回の融雪剤散布車両の総走行距離	90								
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
1 幹線道路における積雪による通行止め	非通行止め率	%	(1-通行止め件数÷365)×100	100										

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	91,995,503	84,650,538	99,363,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	活 動 指 標	1回の除雪延長	目標	km	216	216	216		
			実績	km	216	216			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
		1回の散布延長	目標	km	90	90	90		
			実績	km	90	90			
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	-		
	成 果 指 標	非通行止め率	目標	%	100	100	100		
			実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
		-	目標						
実績									
達成率	%	-	-	-	-	-			
備 考									

事務事業名	市道除雪・融雪剤散布事業	事業期間	~	年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	建設課	維持係		連絡先	504

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （要因分析）	変果動指要標因分	その年の天候により変動はある。 H30は昨年度に比べ暖冬であった。	その年の天候により変動はある。 R1は昨年度に比べ暖冬であった。		
価値（CHECK）	成果	冬期間の安全で安心した交通しやすい道路	冬期間の安全で安心した交通しやすい道路			
	総合評価 課題	その年の天候により変動はある。 除雪路線・塩カル路線を今より増加させることは困難である。	その年の天候により変動はある。 除雪路線・塩カル路線を今より増加させることは困難である。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	翌々年度方向性 コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（ACT）	改善の方向性の内容	市民からの要望で、現状で雪かき路線・塩カル路線を増やすことは困難である。地域の雪かきについては高齢化等で雪かきの要望等は増加の傾向である。	市民からの要望で、現状で雪かき路線・塩カル路線を増やすことは困難である。地域の雪かきについては高齢化等で雪かきの要望等は増加の傾向である。			
	策び容					
作成担当者	松沢 勝	松沢勝				
最終評価責任者	大谷 勝己	黒澤俊彦				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	道路・河川維持修繕事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	建設課	維持係	連絡先	504	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0201	道路・河川維持修繕事業		

予算事業名	道路・河川維持修繕事業	会計コード	01	款	08	項	02	目	02	事業	01
-------	-------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 舗装道路面が傷んで通行に支障が出ている箇所を補修する。未舗装市道砂利敷きへの材料支給。
 道路側溝の傷んだ箇所を補修する。
 風雨により堆積した道路上の土砂を清掃する。
 幹線市道の維持に特に影響のある大きな法面の草刈り。
 市が管理する河川について建設重機等の借り上げによる河床の整備。

現状と背景
 (どうして)
 冬期間の凍み上がりや経年により道路構造物が老朽化し通行や水の流れに支障をきたすため修繕が必要。道路上の土砂が道路側溝等へ流れ込み雨水の流れを妨げたり諏訪湖への流入等被害を発生させるため路面の清掃が必要。準用河川約40kmと普通河川約60kmについて台風や集中豪雨などで河川への土砂堆積や洗掘などが発生し越水や堤体の決壊に繋がる原因となる。

目的
 対象者 (誰のために)
 茅野市内の市道道路利用者 および 河川沿線の居住者
 対象 (直接働きかける)
 茅野市道 約1800km および 準用河川約40kmと普通河川約60km

留意点
 (どんな状態にしたいか)
 道路通行車両や通行者の事故防止。降雨時の冠水や浸水防止。市で建設機械重機等を借り上げて河床の整理を行い中小河川の流下能力が損なわれないようにし、地元地区と連携して災害に強い河川環境を維持する。

手段・方法
 (どうやって)
 舗装路面の傷んだ部分の補修（パッチング等）を行う。
 道路清掃車で幹線道路の清掃を行う。
 幹線市道の維持に特に影響のある大きな法面の草刈りを行う。
 区・自治会等が未舗装市道の補修に使用する砂利を支給する。
 地元区自治会等から情報を得ながら堆積土砂の排除や河床整理を行う。
 地元区自治会等の一級河川環境整備活動に対して支援を行う。

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	要望補修工事実施率	補修工事実施率	%	補修工事実施件数/要望件数
活動指標	2	道路パトロールの実施	パトロール延長	km	道路パトロール自動車の総走行距離	20,000
	3	道路清掃の実施	道路清掃延長	km	幹線道路の土砂を除去した距離	1,500
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	道路施設物に起因した事故の防止	事故非原因率	%	100 - (事故件数 ÷ 365) * 100	100
変更履歴	2	中小河川における河川埋塞による被害防止	河川非埋塞率	%	100 - (事故件数 ÷ 365) * 100	100

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財源内訳	事業費等(a)	円	169,958,774	155,323,650	154,611,000		
国庫支出金		円						
県支出金		円						
地方債		円						
その他特定財源		円	836,820	3,494,880	450,000			
活動指標	補修工事実施率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	91	91			
		達成率	%	90.70	91.00	-	-	
	パトロール延長	目標	km	20,000	20,000	20,000		
		実績	km	27,106	27,622			
		達成率	%	135.53	138.11	-	-	
	道路清掃延長	目標	km	1,500	1,500	1,500		
		実績	km	1,921	2,081			
		達成率	%	128.07	138.73	-	-	
	成果指標	事故非原因率	目標	%	100	100	100	
			実績	%	100	100		
			達成率	%	100.00	100.00	-	-
河川非埋塞率	目標	%	100	100	100			
	実績	%	100	100				
	達成率	%	100.00	100.00	-	-		

備考

事務事業名	道路・河川維持修繕事業		事業期間	~	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	建設課	維持係			連絡先	504

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		道路清掃車は平成18年に購入し、老朽化が著しく故障も近年多くなってきた。清掃車の調子により変動する。	道路清掃車は平成18年に購入し、老朽化が著しく故障も近年多くなってきた。清掃車の調子により変動する。		
価値（総合評価）	成果	安全・安心して通行できる道路環境づくり。	安全・安心して通行できる道路環境づくり。			
	課題	定率で予算を減少されているが、道路の維持・管理に係る経費を削減していくには問題がある。車両の老朽化、委託先シルバー人材センターの特殊能力のため高齢化に課題が残る。	定率で予算を減少されているが、道路の維持・管理に係る経費を削減していくには問題がある。車両の老朽化、委託先シルバー人材センターの特殊能力のため高齢化に課題が残る。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（内容）	策び容	車両パトロール、道路清掃については、シルバー人材センターに委託しているが、委託がいつまで続けることができるか問題がある。また、市民要望をすべて聞くには限外がある取捨選択が必要になる。	車両パトロール、道路清掃については、シルバー人材センターに委託しているが、委託がいつまで続けることができるか問題がある。また、市民要望をすべて聞くには限外がある取捨選択が必要になる。本年度は、河畔林整備事業を行ったため、特定財源が増えた。			
作成担当者		松沢勝	松沢勝			
最終評価責任者		大谷勝己	黒澤俊彦			
最終評価年月日		2019年5月17日	2020年7月3日			